

# かお・人・interview

2021年3月11日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
遠賀川河川事務所 所長

## 柄沢祐子氏

yuko KARASAWA

九州で国が管理するのは20河川。遠賀川は8番目に位置する中規模河川だ。ここを管轄する遠賀川河川事務所所長は、九州初の女性所長、川の流域を地元とする。結婚、出産、子育てを経験し、次世代を牽引するアグレッシブな女性だ。慣れ親しんだ川は、流域内人口密度トップクラス。堤防の約8割が兼用道路と、維持管理が難しい。遠賀川の今後の取り組み、課題などについて柄沢所長に話を伺う。

### Q 所長就任にあたっての抱負

遠賀川では、平成29年の九州北部豪雨、平成30年7月豪雨において、既往最高水位を更新する出水が発生しています。令和2年7月豪雨では、彦山川で溢水が生じ、県道が通行止めになる被害がありました。改めて、気候変動の影響を感じているところです。



▲平成30年7月出水の状況

今後の水災害リスクに備えるため、全国的に「流域治水」の取り組みが行われています。全ての主体が治水対策を行うということは、みなさんに遠賀川を知ってもらい、向き合ってもらい、いい機会です。遠賀川は自治体、河川協力団体、地域の方々など、多くの方が活動されています。これら関係者の方々と連携を強め、水害被害を軽減するよう取り組んで参ります。

また、私は北九州市八幡西区出身で、高校まで住んでいました。流域は地元でもありますので、遠賀川を通じて少しでも地元に貢献できればと思っています。

### Q 九州や福岡県とのかかわり

本省で海岸事業を担当する係長の時に、東日本大震災が発生し、災害対応にあたりました。その4年前には三陸国道事務所に勤務しており、馴染みのある土地の災害でした。私自身も身近な人も災害に見舞われたことはありません。それまでの勤務でも対応したことがなかった



ため、就任してすぐの7月豪雨では、自然災害による被害を目の当たりにしました。豪雨被害と正面から向き合う初めての経験です。その時に、自然災害でつらい思いをする方が、これから一人でも少なくなるようにしたい、そう強く思いました。

## Q 事務所の紹介

遠賀川は、下流域には北九州市や中間市、中流域には直方市や宮若市、上流域には飯塚市や嘉麻市、彦山川には田川市と、下流から上流まで市街地が形成されており、流域市町村は21を数えます。

そのため、遠賀川の流域面積は九州の国管理20河川中8番目、幹川流路延長は11番目と、中規模の河川です。ですが、流域内人口は約62万人と九州で2番目に多く、流域内の人口密度は九州で1位となっています。このようなことから、河川管理施設の数が約900施設と、九州の国管理河川の3割を占めるなど突出しています。本川堤防の約8割が兼用道路であり、維持管理が難しい河川となっているのも遠賀川の特徴です。

平成19年4月に策定した現在の河川整備計画は、直方市にある基準地点「日の出橋」において、3,800m<sup>3</sup>/sを河道で流します。しかし、平成30年7月の出水では、日の出橋4,000m<sup>3</sup>/sを超える流量となりました。平成30年7月出水にも対応できるよう、河川整備計画変更について検討を進めています。



## Q 今年度の事業概要について

当事務所の令和2年度当初予算は、約37億円です。平成30年7月の出水に対応するため、遠賀川本川では河道掘削を進めています。下流部の流下能力向上のネットワークとなっていた中間堰の改築が完了したため、下流から河道掘削を進めています。併せて、直方市、小竹町など中流部及び芦屋町の堤防整備を進め、流域内のバランスを確認しつつ整備を進めています。

また、災害の対応として、平成29年九州北部豪雨において、家屋等の浸水被害が生じた彦山川上流部では、これまで実施した河道掘削に加え、現在は堤防整備が進行中。平成30年7月豪雨で甚大な内水被害が発生した庄内川、庄司川については、国、県、市町からなる「平成30年7月豪雨浸水対策連絡協議会」を設置し、浸水対策について協議を進め、庄司川については、「庄司



▲遠賀川整備

河川利用も控え気味でしたが、  
少しずつ利用者が増えています。  
コロナという状況だからこそ、  
新しい使い方や出会いも生まれると思います。



川総合内水対策計画」を策定し公表しました。国では、遠賀川本川の水位を下げるための河道掘削を今年度から進めています。両河川とも、国、県、市の役割分担のもと、連携して対策に取り組んでいきます。

## Q 地域との連携・協働について



▲河川事務職員による出前講座



▲住民団体による河川活動

公洗炭によって黒く濁り、水質も悪かった遠賀川を、現在の状況にまで回復したのは、地域住民の活動の賜物です。遠賀川は地域に支えられて現在の状態になりました。

コロナ禍において、河川空間は換気が良く、使い方によっては密になりにくい貴重なスペースだと思います。遠賀川は地域の皆さんに、これまで、環境を守りながら上手に活用してきていただきました。一時、河川利用も控え気味でしたが、少しずつ利用者が増えています。コロナという状況だからこそ、新しい使い方や出会いも生まれると思います。今後も河川の利活用を通じ、地域が元気になる取り組みを進めていきたいと思っています。

## Q 地域建設業への要望・メッセージ

遠賀川の河川整備を着実に進め、膨大な数の河川管理施設の適切な維持管理はもとより、災害時の対

応にあたっては、流域内を熟知されている地元の建設業界の存在はきわめて重要です。

令和2年7月豪雨の際も、河川の巡視や緊急復旧工事にあたっていただきました。緊急復旧工事をCCTVで映していましたが、少し前に打合せをしていた方が、モニターを見ると「もう現場に入っている」と感動しました。昼夜を問わず施工していただいたことで、被害を最小限にとどめ、迅速に応急措置を講じることができました。

これからも地元建設業界の皆様の意見を聞きながら、建設業界、地域の発展のために努力して参りたいと考えています。



▲災害復旧工事

## Q 趣味や健康法について

趣味は国内外を問わず、旅行することでしたが、今はお休み中です。子どもが5歳、2歳と小さいため、プライベートの時間は、ほぼ子どもたちに関することに使っています。イベントにも子どもを連れて行かせてもらっており、記憶力のよい子どもたちは、遠賀川の歌も覚えてしまいました。自然と大いに触れあえる環境に親としても喜んでいきますし、当の子どもたちもとても楽しそうです。

夏は彦山川で川遊び、秋は水巻や黒川でコスモス鑑賞と、遠賀川だけでも楽しいことがたくさんあって、在任中に回りきれるか心配しています。

### プロフィール



出身地：福岡県北九州市  
生年月日：昭和55年9月24日（40歳）  
H13年4月 国土交通省入省  
H24年6月 近畿地方整備局  
大和川河川事務所 調査課長  
H25年9月 中部地方整備局 河川部  
河川計画課長 長女出産  
H28年 5月 国土交通大学校 建設部 建設企画課長 次女出産  
H30年10月 水管理・国土保全局水資源部 水資源政策課 課長補佐  
R2年 7月 現職